

農業と科学

1990
8

CHISSO-ASAHI FERTILIZER CO. LTD

平成2年度

農業観測の概要

農林水産省大臣官房調査課

調査専門官 片山信浩

はじめに

農林水産省は、昭和27年度から農産物及び農業生産資材等に係わる需給、価格等の動向の分析及び見通し等を内容とする農業観測を作成、公表しています。作成に当たっては、天候に左右される作柄は平年作を前提としており、また、見通しは当然幅をもったものであり、説明中に用いられている変動幅は表1のとおりです。

1. 農業経済

(1) 国内経済

平成元年度の我が国経済は、個人消費が堅調に推移し、設備投資が大きく増加する等拡大を続け、実質経済成長率は4.6%程度になったと見込まれています。2年度の我が国経済は、「政府経済見通し」によると実質経済成長率は4.0%程度と見込まれています。

(2) 農産物需要

実質飲食費支出は緩やかながらも増加傾向にあり、元年度の家計における実質食料費支出は0.3%増と低い伸びとなりました。費目別には調理食品が伸び、肉類が増加に転じたものの、外食は5年ぶりに減少しました。2年度の実質飲食費支出は引き続き緩やかに増加すると見込まれます。

(3) 農業生産を取り巻く情勢

① 農業就業人口

農業就業人口は景気の拡大とともに雇用環境が改善されたこと等から元年度は2.6%減少しました。2年度も引き続きわずかに減少すると見込ま

表1 変動の幅をあらわす用語

わずか	±2%台以内
やや	±3~5%台
かなり	±6~15%台
かなりの程度	±6~10%台
かなり大きく	±11~15%台
大幅	±16%以上

れます。

② 農業生産資材価格

農業生産資材の農村価格は、低下傾向で推移してきましたが、元年度は円安傾向や飼料価格の上昇等から3.6%高となりました。2年度は前年度に比べ円安となっていること、原材料価格等が上昇していること等から、飼料、石油製品を中心に値上がりし、全体ではわずかに上回ると見込まれます。

本号の内容

§ 平成2年度農業観測の概要.....(1)

農林水産省大臣官房調査課
調査専門官 片山信浩

§ ゴルフ場芝保全と機能性肥料.....(5)

日本グリーンキーパーズ協会
技術顧問・農学博士
潮田常三

表2 消費の動向等

(対前年度増減・騰落(▲)率(%))

区分	63年度	元年度	2年度(見通し)
実質民間最終消費支出	5.0	4-12月 3.2	4.6程度(政府経済見通し)
消費者物価(総合)	0.8	2.9	1.6程度(政府経済見通し)
食料品消費者物価	0.8	3.1	わずかに上回る
実質飲食費支出	1.6	1.2程度	わずかに増加

《主要農業生産資材の見通し》

農業機械

農村価格は、農業機械の全農買入価格が、大部分の機種について据置きとなったこと等から、ほぼ前年度並みと見込まれます。

肥料

農村価格は、りん鉱石等の肥料の海外市況が堅調に推移していること、円安基調にあること等からわずかなしやや上回ると見込まれます。

農薬

農村価格は、製造業者販売価格が元年12月に平均0.35%引き下げられ、これが2年11月まで適用されること等から、ほぼ前年度並みと見込まれます。

2. 農産物供給

(1) 国内農業生産

元年度の農業生産は、米の生産回復等から耕種生産が1.6%程度、畜産生産が2.0%程度増加し

たとみられることから、農業生産総合では1.7%程度増加したとみられます。2年度は、耕種生産が0.3%程度、畜産生産が0.9%程度増加するとみられることから、0.5%程度増加すると見込まれます。

(2) 農産物輸入

元年度の農産物輸入量は、前年度に比べ円安傾向となったものの、付加価値の高い加工・半加工品が高い伸びを示したことから、全体では3.3%増と緩やかな伸びとなりました。2年度は、需要が堅調な肉類、飲料、加工食品等が引き続き増加するとみられることから、全体ではやや増加すると見込まれます。

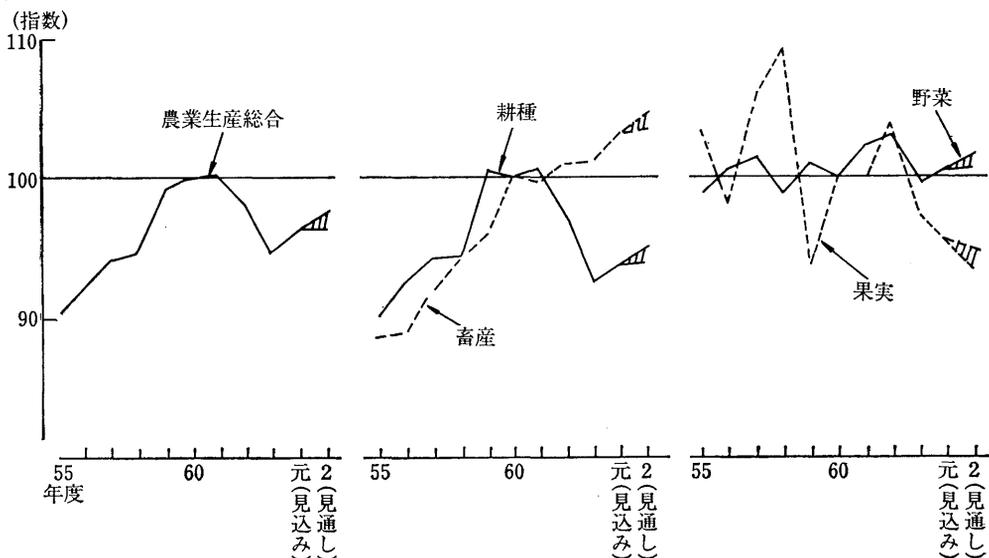
《主要農産物の2年度の見通し》

(畜産物)

牛肉

① 枝肉生産量は、子牛生産動向や生乳需給動向からみて前年度並みないしわずかに増加すると

図1 農業生産の動向



見込まれます。また、輸入割当数量は39万4,000トン(元年度見込み36万4,000トン)となっています。

- ② 卸売価格は、牛肉需要が堅調に推移すること等から、ほぼ前年度並みで安定価格帯内で堅調に推移すると見込まれます。

豚肉

- ① 枝肉生産量は、ほぼ前年度並みと見込まれます。また、輸入量は加工・業務用需要が引き続き増加するとみられることからやや増加すると見込まれます。
- ② 卸売価格は、ほぼ前年度並みで、おおむね安定価格帯内で推移すると見込まれます。

牛乳

- ① 生乳生産量は、わずかに増加すると見込まれます。乳製品向け生乳処理量は前年度並みないしわずかに増加すると見込まれます。
- ② 生乳の農家販売価格は、飲用向け生乳価格の動向にもよるが、加工原料乳保証価格の引下げによりわずかに下回ると見込まれます。

(果実)

みかん

- ① 収穫量は、「かんきつ園地再編対策」により結果樹面積が減少し、単収も裏年に当たることから低下するとみられ、かなり大きく減少すると見込まれます。
- ② 卸売価格は、供給量の減少が見込まれること、果実の品質の悪い園地が転換されること等から、かなりの程度上回ると見込まれます。

りんご

- ① 収穫量は、結果樹面積が横ばいで推移していること等から、ほぼ前年産並みと見込まれます。
- ② 卸売価格は、前年収穫量が少なかった早生種の生産が回復するとみられること等から、かなり低下すると見込まれます。

(野菜)

国内生産は、ほぼ横ばいで推移しており、元年度は1%程度の増加にとどまりました。また、生鮮野菜の輸入量は、円高や消費の平準化等を背景に国内産の端境期を中心に増加してきましたが、元年度は落ち着いた動きとなりました。

(季節区分ごと(注)の野菜の見通し)

春野菜

市場入荷量は、果菜類がわずかに増加したものの、根菜類、葉茎菜類が減少したことから、全体ではわずかに減少しました。卸売価格は、根菜類、葉茎菜類が大幅に上昇したこと等から全体ではかなり大きく上昇しました。

夏秋野菜

- ① 生産は、生育がおおむね順調であることから、天候不順の影響を受けた前年産に比べればわずかに増加すると見込まれます。
- ② 卸売価格は、供給量が増加するとみられることから、根菜類、葉茎菜類、果菜類ともほぼ前年産並みないしわずかに下回ると見込まれます。

秋冬野菜

- ① 生産は、果菜類がわずかに増加し、根菜類、葉茎菜類がほぼ前年産並みと見込まれます。
- ② 卸売価格は、年内はやや上回るものの、年明け後はややないしかなりの程度下回ると見込まれます。

(注) 季節区分は個別品目により多少異なるが、おおむね春野菜は4～6月間、夏秋野菜は7～10月間、秋冬野菜は11～3月間である。

(米)

米の消費は、依然として減少しており、元年度の消費世帯の1人当たり消費量は、外食は増加しているものの、家庭食が減少していることから全体では1.6%減となっています。

《2年度の見通し》

2米穀年度(元年11月～2年10月)の主食用等の需要量は1,000～1,010万トン程度、2年産の米が主として消費されることとなる3米穀年度の需要量は990～1,000万トン程度と見込まれています。

3. 農業生産額

元年度は耕種生産が回復し、畜産生産が堅調に推移したことに加え、価格がわずかに上昇したこと等から、4.5%程度増の12.6兆円程度になったとみられます。2年度は、農業生産はわずかに増加し、農産物生産者価格は前年度並みとみられることから、前年度並みないしわずかに増加すると

見込まれます。

4. 海外農産物

《1990/91年度の需給の概要》

小麦 (1990年7月～1991年6月)

生産量はややないしかなりの程度増加、消費量はわずかに増加、期末在庫は低水準であった前年度からかなり回復すると見込まれます。このため、需給はわずかながらも緩和に向かうとみられます。

飼料穀物 (1990年10月～1991年9月)

生産量はわずかに増加、消費量は前年度並みとみられるものの、4年連続して消費が生産を上回ることから、期末在庫はさらに減少すると見込まれます。このため、需給は引続き引き締め基調で推移するとみられます。

大豆 (1990年10月～1991年9月)

生産量は前年度並み、消費量はわずかないしやや増加するとみられ、期末在庫はやや減少すると見込まれます。このため、需給はやや引き締め基調で推移するとみられます。

表3 主要農産物の国内生産

(対前年度増減(▲)率(%))

区 分	63年度	元年度(見込み)	2年度(見通し)
牛 肉	0.1	▲ 5.2	前年度並みないしわずかに増加
豚 肉	▲ 1.0	1.2	前年度並み
ブロイラー	0.1	0.3	前年度並みないしわずかに減少
牛 乳	3.9	5.4	わずかに増加
鶏 卵	0.4	0.6	前年度並み
み かん	▲20.7	0.9	かなり大きく減少
りんご	4.4	0.3	前年度並み
ぶどう	▲ 4.0	▲ 7.0	わずかに増加
日本なし	▲ 4.4	▲ 1.8	やや増加
野 菜	▲ 3.5	0.9	わずかに増加
米	▲ 6.5	4.1	前年度並み(1,035万トン程度) (注)
4 麦	16.7	▲ 4.5	やや減少
大 豆	▲ 3.6	▲ 1.9	わずかに増加
茶	▲ 6.7	0.8	前年度並み
花 き	6.5	4.4	やや増加

(注) 主食用等985万トン及び他用途利用米約50万トンの合計である。

表4 主要農産物価格

(対前年度騰落(▲)率(%))

区 分	63年度	元年度(概算)	2年度(見通し)
牛 肉	—	2.5	前年度並み
豚 肉	▲ 3.0	▲ 2.1	前年度並み
ブロイラー	▲ 9.0	4.8	やや上回る
牛 乳	0.3	0.6	わずかに下回る
鶏 卵	2.4	21.9	かなりの程度上回る
み かん	35.9	13.6	かなりの程度上回る
りんご	▲ 2.2	25.0	かなり下回る
ぶどう	1.7	16.1	前年度並み
日本なし	▲ 8.0	34.9	かなり大きくないし大幅に下回る
野 菜	5.7	3.2	わずかに上回る
茶	▲ 1.5	13.3	やや下回る

注：牛肉は63年度より枝肉規格(「省令」規格)が改定された。